

ROTOBO

Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROBOTO

2026年(令和8年)5月15日号 No.2023

目次

| | |
|--|----|
| ■ 2025年のロシア港湾の貨物量 | 1 |
| ■ 統計速報 | 8 |
| 2026年1～3月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／8 | |
| 2026年1～3月の日ロ貿易／9 | |
| ■ キーパーソン | 12 |
| スクリアル第一副首相がカザフスタン大統領府長官就任／12 | |
| ■ エトセトラ | 13 |
| 情報提供セミナー「ロシアにおけるM&A・資金回収・銀行業務の直近動向」のご案内／13 | |
| ■ トピックス | 13 |
| WOTA、ウクライナ4都市と水インフラ協力／13 | |
| ロシア産原油、今治・菊間港に到着／14 | |
| アゼルバイジャン産原油、横浜港に到着／15 | |

2025年のロシア港湾の貨物量

解説

ロシア港湾の取扱貨物量の2025年の実績を入手したので、本号では、早速このデータを図表にまとめてお届けする。

昨年1年間のロシア港湾の取扱貨物量は、8億8,450万tで、前年比0.4%減と2年連続の減少となった。このうち、ドライカーゴは4億4,167万tで0.2%減、液体カーゴは4億4,282万tで0.5%減と、いずれもわずかながら減少している。

取扱貨物量は2024年、軍事侵攻開始後初めて前年を下回った。2025年も、鉱石や鉄鋼など増加した品目はあったものの、欧米諸国による制裁強化、輸送インフラの制約、ロシア政府による輸出規制、国際価格の低迷といった要因が重なり、総取扱量は前年並みにとどまった。

ドライカーゴでは、穀物が前年より31.1%減の5,222万t、木材が7.0%減の177万t、コンテナが2.7%減の5,400万tとなった。一方、鉱石は29.1%増の1,590万t、石炭は7.8%増の2億287万t、肥料は8.0%増の4,588万t、鉄鋼は20.8%増の2,298万tと、それぞれ大幅な増加となった。

肥料は西側諸国が制裁の対象外としていることもあり、国際市場での需要は引き続き堅調である。世界的な農業需要の高まりも後押しし、ロシアの肥料輸出は継続的に増加している。一方、穀物の輸出が大きく落ち込んだ背景には、ルーブル高による採算性の悪化、国際市場での価格競争力の低下、輸出割当量の縮小など、複数の要因が影響している。